

水辺のふるさと かつしか

春号

2023.12

-2024.2

自然環境レポーター通信



写真のタイトル：桜の芽を食べるウソ
撮影場所：水元公園 写真提供：千葉 美文

水辺のふるさとかつしか 春号

目次

- 1 55種の動植物調査結果 P 2～5
- 2 自由レポート P 6～33
- 3 季節の写真集 P 34～39
- 4 魚からの便り P 40～43
- 5 環境課からのお知らせ P 44～46



こんにちは。環境課自然環境係の大野と申します。

先日、自然環境レポーターから有志を募り、「かつしか環境・緑化フェア2024」(P. 44参照)の自然環境レポーターブース用のパネル(クイズ)を作成しました。子供から大人まで親しみやすい内容となっておりますので、ぜひフェア当日にお楽しみください!ご協力いただいた3名の方々、誠にありがとうございました。

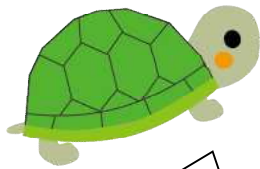
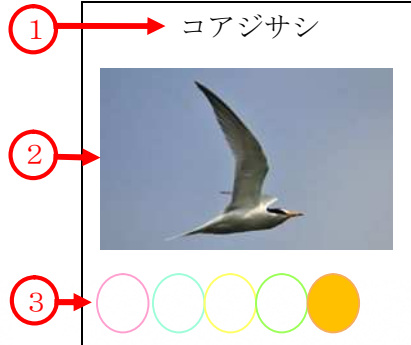
今年度を振り返ってみると、色々なものに気付く事が多かったなと思います。稲穂がこうべを垂れる頃の水田に、物凄い数のスズメが集まってチュンチュン大合唱する様子。春先の地面を見てみたら、一步の範囲に手触りの良いフキノトウがボコボコ生えていた事。身近なものだけど詳しくは知らなかったり、視界に入っているにもかかわらず見えていなかったり、そういうものへ目を向ける機会に恵まれた一年でした。一年間お世話になりました。

環境課自然環境係大野

55種の動植物 調査結果（12～2月）





















【次ページの見方】













- ① 名前（赤字は外来種）
- ② 写真
- ③ 発見された調査区
（調査区ごとの色で塗り潰し）


















在来種のコアジサシが
調査区5で発見されたと
分かるね！



<p>コアジサシ</p>  <p>○ ○ ● ○ ○</p>	<p>ウグイス</p>  <p>○ ○ ○ ○ ●</p>	<p>ギンヤンマ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>トノサマバッタ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>ツバメ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>コサギ</p>  <p>○ ○ ● ○ ●</p>	<p>アキアカネ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>クマゼミ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>オオヨシキリ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>カワセミ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ●</p>	<p>オオカマキリ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>アブラゼミ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>コガモ</p>  <p>○ ○ ● ○ ●</p>	<p>コゲラ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ●</p>	<p>エンマコオロギ</p>  <p>○ ○ ● ○ ○</p>	<p>ツクツクボウシ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>ツグミ</p>  <p>○ ● ○ ● ●</p>	<p>シジュウカラ</p>  <p>● ○ ● ○ ●</p>	<p>カンタン</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ミンミンゼミ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>

<p>ニイニイゼミ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>テングチョウ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ナガミヒナゲシ</p>  <p>○ ○ ● ○ ●</p>	<p>セリ</p>  <p>○ ○ ● ○ ○</p>
<p>ヤマトタマムシ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ツマグロヒョウモン</p>  <p>←雄 雌→</p> <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>シロツメクサ</p>  <p>● ○ ● ● ○</p>	<p>オオバコ</p>  <p>○ ○ ● ○ ●</p>
<p>ナガサキアゲハ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>アカボシゴマダラ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>スズメノエンドウ</p>  <p>○ ○ ○ ● ○</p>	<p>オオキンケイギク</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>クロアゲハ</p>  <p>←表 裏→</p> <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>アカメガシワ</p>  <p>● ○ ● ● ●</p>	<p>イモカタバミ</p>  <p>○ ○ ● ● ●</p>	<p>カントウヨメナ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>ナミアゲハ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>スギナ</p>  <p>ツクシ ↓</p> <p>○ ○ ○ ○ ●</p>	<p>アレチウリ</p>  <p>果実 ↓</p> <p>○ ○ ● ○ ○</p>	<p>カントウタンポポ</p>  <p>反り返らない→</p> <p>○ ○ ● ○ ○</p>

<p>ツユクサ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ミシシippアカミミガメ</p>  <p>○ ○ ● ○ ●</p>	<p>コガネグモ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>ジュズダマ</p>  <p>○ ○ ○ ● ○</p>	<p>ニホンカナヘビ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ジョロウグモ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>ススキ</p>  <p>● ○ ● ● ●</p>	<p>ニホンアマガエル</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>メダカ</p>  <p>←カダヤシメダカの特徴に注意</p> <p>○ ○ ○ ● ○</p>
<p>アライグマ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ●</p>	<p>ニホンアカガエル</p>  <p>○ ○ ○ ● ○</p>	<p>ブルーギル</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>ハクビシン</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ウシガエル</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ベンケイガニ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○</p>

氏名	散歩の花子	町名	東四つ木	調査区	2-8
----	-------	----	------	-----	-----



ムスカリ／(キジカクシ科)
／中川右岸緑道 2/28 にて

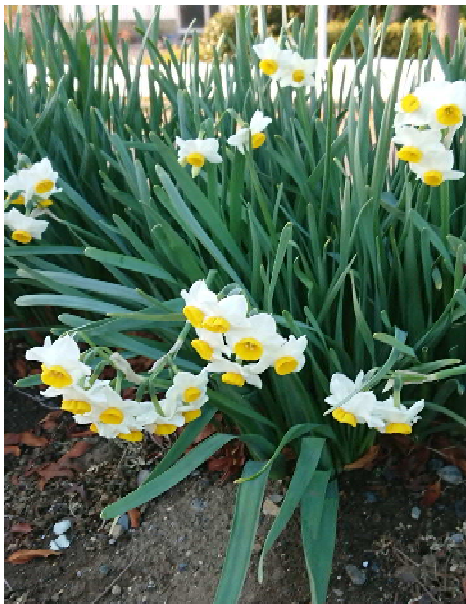
他にまだ何も生えていない地面から、
10cmにも満たない背丈で
”春が来るヨ”とアピールしています。

オウバイ(黄梅)／(モクセイ科)
／中川右岸緑道 2/20 にて

ここの一株だけ。
藪のような小枝の中から黄色の小花たちが
勝手に咲いて、ここでも”春が来るヨ”と
アピールしています。



スイセン(日本水仙)／(ヒガンバナ科)
／中川右岸緑道 2/20 にて



1月下旬から、緑道土手のアチコチで
蕾が出て、ひっそりと咲き始めています。
この写真は、2月中旬の盛んに咲く様子です。
背の低い15cmほどの一群、
冬の寒さの中、がんばれ・・・！

コサギ生態系

- 大きさ 61cm
- 生息場所 水田、河川、湿地など
- 食べ物 小魚

考察

- コサギは白サギの種類の一つで、チュウサギより小さく、アマサギよりはやや大きい。くちばしと脚は黒く、足の指だけ黄色いのが特徴です。夏になると頭の後ろに2本の長い飾り羽が生えます。



- エサを捕る時は、足を搔いて砂に隠れている小魚を泳がせて、素早く長いくちばしで掴む。

- 今回は、人工の川でたまに飛来しに来る所で見かけました。

魚は生息してはいないのですが、一所懸命に探している姿が微笑ましかったです。

田中先生に前にお尋ねした所、人工の川だというのは分かっているのだが、テリトリーの場所で休憩しにも来ているのではと教えて頂きました。

リニューアル1周年の鎌倉公園で葛飾の生物多様性を考える

広瀬 温 (調査区2)

鎌倉公園北側エリアのリニューアル開園から1年、2022年から公開されていた南側エリアの野草園は2年経ち、2024年の早春、さまざまな催しが開かれた。



1月27日 人と生きものをつながり「生物多様性」を学ぶ

鎌倉公園では月に2度ほどイベントが開かれている。子ども向けが多いが、大人向けの催しもある。1月27日「鎌倉公園で人と生きものをつながり“生物多様性”を学ぼう」に参加する。小学生の兄弟と大人5人、自分以外の4人は公園のボランティアだ。

管理所内でテーブルを囲み、芝原専門員から、鎌倉公園・野草園の歴史、生物多様性の現状について学ぶ。その後、屋外に出て、3人の若い専門員と一緒に野草園を回る。

鎌倉公園・野草園では植物333種、動物167種、計500種の生きものが見られるという。といっても「生物多様性」とは、多くの種類の生きものがあることだけではない。園内の限られた空間でも、植物→微生物→昆虫→カエル→鳥など、多様な生きものがつながって生命をつないでいることが尊い。プランターの下に隠れているダンゴムシ、池の中を小学生が覗き込む。生物多様性はテーブルで考えると難しいテーマだが、園内を回って観察すると、生きものつながりが見えてくる。



2月18日 立春の鎌倉野草園で春を探す

2月18日、自然環境レポーター春の研修会「立春の鎌倉野草園で春を探そう」が開かれ、14名が参加した。管理所のウッドデッキに集合し、芝原さんから、鎌倉野草園の成り立ちなど、簡単な説明を受けた後、3人ごとのチームに分かれて園内を「春を探し」に回る。自然環境レポーターは個人活動が主体で、ボランティア同士の交流はあまりない

が、今回は個人でなくグループで課題に取り組む。観察→話し合い→発表のサイクルで、脚・眼・脳をフル回転させ、限られた時間を有効に使う。「水辺のふるさと」で欠かさずレポートを続けているSさんと同じチームになり、たいへん勉強になる。今後の活動に活かせればと思う。

研修後、毎回言葉を交わす同期のKさんと情報交換。鎌倉公園は初めてとのことだが、舗装部分が多く、土の地面・樹木が少ないことを危惧されていた。Kさんは水元をフィールドに丹念に観察を続けられているので、住宅地にある「近隣公園」の自然環境の課題が見えているようだ。

リニューアル後、南側エリアには年間10万人、管理所には4万人が訪れてるという。これは運営スタッフの工夫と努力の賜だ。「地域の庭として人々が集い憩える公園」鎌倉公園の運営は「近隣公園」のモデルになる。暖かい晴天の下、多くのレポーターが集まり、大収穫の研修会だった。



2月24日 「ふるさと鎌倉の歴史」を学ぶ

郷土と天文の博物館・小峰園子学芸員による「ふるさと鎌倉の歴史」を受講する。昨年2月にも受講しているが、内容が進化している。

260万年前の関東平野の形成から、陸化して稲作が始まり、ムラが形成～発展していく過程が史料をベースに語られる。きちんとした地域の歴史を地元で聴ける貴重な機会、11名の参加者が熱心に聴き入る。

「歴史」と「生物」は別モノと考えられがちだが、「生物」が学べる野草園で「歴史」に親しめる催しはヒットだと思う。

「生物多様性」は、①種の多様性 ②遺伝子の多様性 ③生態系の多様性の3つのレベルで語られる。生物多様性の最新事情は、TVや新聞のニュースでもよく取り上げられるが、葛飾周辺の生態系については地元で得るしかない。生態系の多様性は「景観の多様性」とも言い換えられる。現在の景観はこれまでの歴史の上に成り立っている。

「ふるさと鎌倉の歴史」を学ぶことは、自分の住む地域の生態系をつかむことにつながる。同じ東京低地でも微妙な高低差がある。青戸と鎌倉の自然環境はほぼ同じだが、少しだけ異なる。鎌倉の歴史、葛飾の歴史をアタマに入れた上で、自分のまちとの違いを調べればいい。

野草園に出るとアズマヒキガエルの卵塊を発見。季節はゆっくりと前進している。貴重な「水辺のふるさと」の生態系を伝える鎌倉公園。自然に親しむ運営は、葛飾の「近隣公園」のモデルになると思う。



写真左から■1961年頃/小岩用水が斜めに走り、周りには一面の田んぼが広がる。■1974年頃/整備された野草園の隣りにプールが新設される。周辺の田んぼは宅地化が進むが、小岩用水は開渠として残っている。■2004年頃/住宅が建ち並び、小岩用水は暗渠化されたものの、野草園は樹木が鬱蒼としているのがわかる。公園北側エリアに、北総線の高架が延びている。■現在/屋外プールはじゃぶじゃぶ池になり、野草園はバリアフリー化され、陽光を浴びている。航空写真による景観の移り変わりから、時代のニーズが読み取れ、生態系の変化が想像できる（『東京時層地図』（一財）日本地図センターより）



葛飾の生物多様性のキモは・・・「川・公園・米づくり」かもしれない

広瀬 温 (調査区2)

『水辺のふるさと冬号』で、1さんが「江戸川対岸の松戸市側の生物相の豊かさ」に触れられていた。東京低地に位置する葛飾がほぼ高低差がないのに対し、松戸は江戸川から下総台地まで高低差がある。1さんが指摘されているように「開発しづらい傾斜地」の存在は大きいだろう。

松戸駅西口の商店街を抜けると5分で坂川に出る。親水テラスからは泳ぐ魚の群れが見え、網を伸ばせば捕まえられそうだ。東口側も5分で緑豊かな高台に出る。都心から30分とは思えないほどの自然が残る。

もう10年以上前になるが、レポーターになって初めての研修会で松戸を訪れ、田中利勝さんの案内で「ふれあい松戸川」や坂川を歩いた。江戸川の対岸に広がる豊かな生物相に驚き、田中さんが主催する「江戸川の自然環境を考える会」の観察会に定期的に参加するようになった。



文字通り江戸川周辺、下総台地の谷戸や利根運河が中心エリアで、四季折々に渡良瀬遊水地や小貝川、さいたま市の見沼たんぼへも足を延ばした。五日市線の武蔵増田まで遠征し「里山保全地域」都内第1号の横沢入を歩いたこともある。そんな中で、毎年1月は、松戸駅～上葛飾橋～水元公園～葛飾橋～松戸駅を一周する「年の初めの鳥合わせ」が恒例の行事だった。葛飾にも自然はあるのだ。

TVのネイチャー番組は生物多様性の最先端の情報が詰まっていますが勉強になるが、結局のところ自然環境は自分の脚で歩いてみないとわからない。それも一人で歩くより、先達と一緒にのほうが見えてくるものが多い。本を読んで学ぶのはもちろん大切だが、疑問が生じたときに質問できるのが何よりありがたい。田中さんは「鉄腕DASH」やNHK-BS番組でたびたび案内役を務められており、観察会でも素人の疑問にもわかりやすく答えてくれる。参加メンバーも、それぞれが鳥・花・昆虫などのプロで、歩きながらいろいろと教えてくれた。

上/2014年1月、江戸川の自然環境を考える会「新春恒例の「江戸川～水元パードウォーク」。

江戸川東岸のアシ原を北風に逆らって進む。上葛飾橋を渡り、三郷市を経て水元公園で冬鳥を観察。ベテランのパードウォッチャーが新入りメンバーにいろいろと教えてくれる。

ここ数年、コロナでの中断もあり、またメンバーも10年の間に10歳、歳をとった、当たり前ながら、改めて驚く。月例観察会はなくなりましたが、それでも不定期にミニ観察会が開かれる。毎月発行されていた『自然通信』も現在は休刊しているが、不定期刊行の『江戸川流域 ミニ通信』には葛飾周辺の生態系の情報が詰まっている。

松戸だけでなく、隣接している三郷や八潮、足立区・江戸川区と比較すると、葛飾の自然環境の現状が見えてくる。GoogleMapで見ると、緑が目立つのは、北東端の水元公園、江戸川や荒川の河川敷で、あとは住宅地の中にポツポツと点在する公園くらいだ。葛飾も昭和30年代までは市街地を外れると田んぼが広がっていたことを考えると「江戸川の自然環境を考える会」で歩いた下総台地の谷戸の田んぼこそが、地元葛飾にかつて広がっていた原風景かと思う。



「この街の誇りはきれいな川と水」のメッセージ

自転車で中川大橋に向かう途中で目にする看板がある。「葛飾の川をきれいにする会」は、区の小学校の出前授業など熱心に活動され、環境・緑化フェアをはじめ環境を守る催しにもよく出展されている。

「この街の誇りはきれいな川と水」・・・捉え方は人それぞれだろうが、「水辺のふるさと」に暮らす身としては願いでもあり、誇れる自然環境を取り戻せるよう努めたい。高砂橋の下流で親水テラスの整備が進み、上流では国交省支援の「中川かわまちづくり計画」が立ち上がっている。大きな河川に囲まれ、豊かな恵みを受けてきた葛飾にとって、川は何よりも大切な宝だろう。



「Think Globally, Act Locally」地球規模で考え、葛飾で行動する

先日の鎌倉公園での研修会で芝原さんから「この1年間、レポーターとして力を入れてきたこと」を問われ、はたと考え込んだ。そんな質問はあまりされたことがないからだが、すぐに答えは出た。自転車で区内を周り、3カ月に一度、提出するレポートが自分の関心なのだろう。グループの話し合いの際、Sさんに「新しく米づくりに取り組む小学校がある」と教えていただいた。機会があれば、昨年に続き、小学校の米づくりのようすをまとめたいと思う。

鎌倉公園での「生物多様性」講座では「Think Globally, Act Locally～地球規模で考え、葛飾で行動する」の行動指針を学んだ。気候変動・環境汚染・侵略的外来種など問題山積の中、生物多様性を維持するには「考えて、行動する」必要がある。鎌倉公園・野草園では、専門スタッフやボランティアにより、草刈り・水やり・土壌改良など、自然環境を維持する活動が続けられている。開発でかつての自然が失われた葛飾にとって、実際の自然に親しめる公園は貴重な空間だ。

昨年一年間、郷土と天文の博物館で田んぼづくりを見守り、水田の果たしていた役割に改めて気づかされた。季節が一巡し、米づくりのサイクルは一応つかめたが、まだまだおぼろげでわからないことが多い。田んぼは「米の工場」ではない、生きものにとって人間の都合は関係ない。曳舟川親水公園にある博物館の田んぼには、暗渠となった葛西用水が流れ、クチボソやドジョウ、タニシが生命をつないでいる。葛飾の生態系は田んぼに支えられていたのだ。

田んぼを観察していると、自然環境だけでなく、かつての葛飾の暮らしも見えてくる。

4月から「川・公園・田んぼ」に通い、葛飾の生物多様性を見守っていききたい。



左/「江戸川の自然環境を考える会」2014年9月月例観察会「鎌ヶ谷～市川歴史めぐり」での谷戸の自然豊かな水路と、同じ地区の3面コンクリートで固められた水路。観察会では歩きながら、いろいろと考えさせられる。右/鎌倉野草園。直立護岸の水路を生きものが移動しやすいよう手を加えている。生きものにとっては、設計段階から自然に近い水路が望ましい。



野鳥好き中学生による葛飾区の自然観察日記！

作成者：千葉美文 住所：白鳥 調査区域：2.3.5

特別編：奇跡の子～夢野に舞う～とトークショーを鑑賞した感想

ホームページ URL：<https://www.htb.co.jp/kisekinoko/>



映画のポスターを持つ沼田監督（左）と斎藤さん（右）
タンチョウなどの希少動物の生息地を増やす為、写真を撮って
拡散してほしい。とのことだったので撮らせていただいた。

奇跡の子～夢野に舞う～は北海道テレビ放送開局 55周年を記念して作られ、令和五年度の文部科学省選定作品に選ばれ、環境省の推薦も受けている映画だ。北海道の札幌市に近い長沼町で遊水地ができたため、その遊水地に絶滅危惧種のタンチョウを呼ぼう（遊水地にタンチョウの繁殖地を作るというのは世界初の取り組み）と地域の農家の皆さんが動き、見事にタンチョウの繁殖に成功したという実話だ。映画の後に監督の沼田さんと北海道にある猛禽類医学研究所の代表を務めている斎藤さんのトークショーが行われた。斎藤さんは鳥インフルエンザに感染した野鳥を世界で初めて治したすごい方だ。トークショーでもそのことが語られた。斎藤さんは人間の薬で野鳥の鳥インフルエンザを治したのだが、なぜ人間の薬を使ったのかという疑問には「人間の薬しかないんですよ。だからそれを使った。」と述べ、野生動物医療がそこまで発達していないことを痛感した。また、「希少な野鳥は一羽救うだけでも保全に大きな効果がある。」と述べた。私はそれを聞いて、希少な野鳥を一羽でも多く救出する事はとても大事だと知った。また、沼田監督の言葉も印象的だった。「長沼町にタンチョウが来て営巣した。それでよかったね。ではなく、北海道内のタンチョウの数は増えているので越冬地になる本州、特にここは東京なので（この映画の公開、このトークショーが行われたのは丸の内）関東にタンチョウが暮らせる場所を作ってほしい。夢の話かと思うかもしれないが、長沼町でも最初は来ないだろうといわれていた。」これを聞いて私も、「葛飾区でもタンチョウのような超希少種が呼べるかもしれない、そのような自然環境のよい葛飾区を作るのに協力するのが環境レポーターなのではないか」と思った。そこで、環境課のみなさん、環境レポーターのみなさん、区民の皆さんに超希少種（タンチョウ、コウノトリ、トキなど）が生息できるような自然環境の良い葛飾区を作る事を提案したい。

2024年2月

4日 曇り 水元公園にてミゾゴイを観察。ミゾゴイは夏鳥のはずだが、水元公園では昨年の秋から同じ個体が観察されており、越冬したとみられる。また、リュウキュウサンショウクイの声も聞こえた。





12日 晴れ 水元公園にて、この日もミゾゴイ（同じ個体）を観察。ミミズを捕食していた。また、日の当たるところにも出てきた。また、ミゾゴイのすぐ近くにアカゲラのオスとメスが出てきた。今期の水元公園はアカゲラが多いように思う。バードサンクチュアリ内の桜にはウソも来ており、新芽を食べていた。ヨシ原（ガマ田）ではカワセミとオオアカハラ（アカハラの亜種）を観察できた

左上：ミゾゴイ 右上：カワセミ 左下：アカゲラ（オス）



17日 曇り 青戸平和公園近くの団地でシロハラを見つける。このシロハラは毎朝、登校時に見かけるため、同じ個体が団地で越冬していると思われる。

左：シロハラ

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2023年12月2日

昭和レトロな庭

昭和の頃の庭で、近頃めっきり減って、減多に近所では見られなくなったけれど、価値があると思う庭だと思ったので、書きます。

葉っぱが八つに割れている、ヤツデという植物と、冬、雪が降ると、雪でうさぎを作る時に目にする赤い実ができる、アオキという植物の庭です。

木造日本家屋や、昔、農家だった家に、本当に時々残っています。

この2種類の植物は葛飾に元々生えていた在来植物です。

地域の自然と、自宅の庭に生えている植物が同じで、自然とシームレスにつながる事で自然との一体感を感じる事ができ、庭が敷地より広く感じられると共に、ビオトープの概念とも近く、自生種なので手入れがほぼいりません。

その庭の持ち主が、地域の自然に関して知識を持っているというステイタスもあると感じます。

昔は外国の植物も多くなく、日本在来の植物だけで、工夫され、受け継がれてきた日本の伝統の庭だと思います。

木は、タブの木、どんぐりのなるスタジイなど、生垣はネズミモチなど、下草はジャノヒゲ、ヤブランなど。

他、夏暑いときは、葉が生えていて日陰になり、冬は葉が落ち、日が当たる事で温かい、ケヤキの街路樹などがありました（硬い木として価値があり、家の土台、餅つきのキネとウスなどとして使われていた）。

落ち葉で焼き芋を焼いたりしてもらった記憶があります。

とりあえずヤツデの写真を今月上旬までおきます。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2024年1月13日

昭和レトロな庭 2

1月分の写真でアオキの写真上げておきました。

赤い実ができていて、少しコーヒーの木を連想させるので、もし庭があって眺めてコーヒーでも飲んだら、優雅でおいしいかもしれません。

在来植物で、木のものは、常緑樹が多く、秋になっても葉が枯れず、1年中緑のまま、葉がそれほど落ちないので、掃き掃除などの庭の手入れが要らないものが多く、昭和レトロな庭は手入れもあまりいりません。

昭和は、庭のない人は、鉢植えの植物を道にはみ出すほど置いて、緑いっぱいでした。今は車の通行、救急車や消防車の通行の妨げになるので、許されませんが。

当時のお年寄りは（お年寄りに限らず）車の運転ができない人が多く、旅行に行くのも、近くの緑地に行くのも体がいう事をきかず、おっくうになった方の、自然とのふれあいだったのだと思います。

手をかければ応えてくれますしね。

木のベンチをちょっとした隙間を見つけて置いて、立って長話がおっくうになったお年寄りが、そこで座って長話をしていました。

夏になると、おじさんがステテコいっちょで、団扇であおぎながら休んでいた。

町中全体がそんな感じだったので、緑の量が今より多く感じられていました。

水辺のふるさとかつしか

自然観察レポート

2023年12月～2024年2月

石戸雅彦 調査区3

今回は水元公園での野鳥観察をレポートします。

冬の野鳥の訪れに感激と新たな発見をしました。

かわいらしいジョウビタキの雄

くちばしロングのアカゲラ

珍しいベンケイヤマガラなど

普段見慣れない野鳥に日々の生活に感動を与えてくれました。



ジョウビタキ 水元公園



くちばしロングのアカゲラ

水元公園



ベンケイヤマガラ

水元公園

辰年の正月

弥生さくら草

今年の正月は衝撃的な地震で明けた。

大抵の家では団欒を楽しんで居た頃だろうか。

わけても能登半島の石川県が著しく揺れ恐怖のどん底を経験されました。

いろいろな不遇例を見て来たから、令和6年は今年こそ良き年にと期待したのに、その

想いは瞬く間に無残に破れた。お気の毒で言葉もない。

暖かさが続いたので植物の世界も厳寒と乾燥は堪える筈である。

今はじっと春の訪れを待っている。

正月に珍重される千両の実のつきようが悪い。去年の冬の寒さでかなり枯れたけれども、

なんとか正月を飾るのに間に合った。

一月の終りになると山茶花さざんかが咲き始めた。今年は白い花が一輪咲いた。

もう白い花の咲く木があったのも忘れていた。

酷寒の中で眼に浸み入るような白い花は新鮮だった。

山茶花と椿の違いは散り方で分けるという。椿は花一輪ごとに落花して、山茶花はひら

ひらと花瓣かべんが舞うように散る。

春の名がつく寒椿も咲き、水仙は寒さの中ですろりとした姿で美しく咲いている。

寒さも何のその凜としている。

1月30日

葛飾区自然環境レポーター 自由レポート (2023年12月～2024年2月)

氏名：江戸川の小鮒	調査区：主に5-24、5-26、4-23	町名：東金町
-----------	----------------------	--------

12月2日(土) 東金町7丁目地先 江戸川堤防

午前中、快晴の天気の下、江戸川堤防上を散策していると、堤防の斜面にホトケノザが咲き乱れていた。まだこれから冬本番ですが、例年この時期には普通にホトケノザが咲いている様子を観察することができます。

さらにツマグロヒョウモンでしょうか、ヒラリヒラリ飛んでいる姿も見られました。花や蝶を見ると何だか心まで温かくなるものですね。



ツマグロヒョウモン



ホトケノザ

12月31日(日) 東金町7丁目地先江戸川堤

16時ごろ、肌寒くどんよりとした天候の中、江戸川堤を散策していると、堤防沿いの道路の街灯に何やら猛禽らしき鳥がとまっている。よく見るとどうやらノスリのようだ。かなり近くでスマホにて写真を撮ったが、まるで逃げる様子はない。ケガでもしているのだろうか

と心配になったが、数日後、兄から河川敷のゴルフ場の近くでも姿を見かけたとの情報が寄せられ、とりあえず飛べる状態であるようで安心した。その後も、兄から目撃情報が寄せられ、江戸川周辺で狩りでもしているのかもしれないが、これまでノスリを江戸川堤付近で見かけることはなかったので、何とも嬉しかった。



ノスリ



ノスリ

2024年2月8日（木） 東金町6丁目

朝6時35分、いつもどおり出勤のため自宅を出て50mほど歩いたときに、自宅の並びの住宅の敷地内にまるで置物のような動物がいた。この辺りでもタヌキを見かけることはあったので、朝からタヌキに会えたと思い喜んだのも束の間、歩き出したその動物のしっぽを見たら縞模様ではないか！なんとアライグマだった。まるで人を見ても逃げるでもなく、こちらを見てキョトンとした表情を見せる。残念ながら写真を撮ることはできなかったが、すぐに道路を挟んだ反対側の住宅の敷地内へとこのそりのそりと歩いて行って姿を消してしまった。気のせいかな丸々と太っていた印象があった。それから数週間後、自宅前のゴミ置き場が荒らされることが続くようになった。荒らされているところを直接見ていないのでアライグマとは断定できないが、カラス除けネットでゴミをくるんでいたのにネット内のゴミを引っ張り出してゴミがバラバラになっている様子に、これまでここまでひどい被害を受けたことがなかったので、ネコやカラスの仕業とは思えない。これからこうした状態が続くと思うと憂鬱だ。皆さんの周りではいかがでしょうか。

2024年2月18日（日） 鎌倉公園

鎌倉公園にて自然環境レポーターの研修が開催された。鎌倉公園に行くのは初めてだったが、区民の様々な世代のニーズを基に作られた公園という印象。限られた敷地ではあるが、なかなか面白い部分もあった。ほんの少しだけ生き物に配慮した要素を公園内に取り入れると、ちゃんと生き物が戻ってくるという面を知ることができる良い例だと思った。



アカガエルの卵



野草園管理所

ただ、水路が垂直護岸であるなどもう少し生き物に配慮した工事はできなかったのだろうかと思われる面もあり、これは今後の葛飾区の公園づくりの課題。それでも新しい発見も多々あり、充実した研修となった。

氏名	K・N	町名	東金町	調査区	5
(水元公園正面入口～養魚場入口間の指定種の植物と昆虫)					
鳥類は大橋周囲～小合溜					
種類	植物・蝶々・野鳥 (令和5年～6年)				

種類	12月	1月	2月	種類	12月	1月	2月
セイヨウタンポポ	0	0	0	ユリカモメ	30以上	20	30
ツクサ・シロツメクサ	0	0	0	カモ類	300	200	70以上
蝶類	0	0	0	アオサギ	1	2	1
				コサギ	1	1	1

植物情報

- ・セイヨウタンポポの花は昨年7月から観察地では見られない。これは15年観察を始めての異常事態だ。原因はなんだろう・・・。
- ・1月中旬の水元公園内は花見ができた。

梅



ろうばい



- ・2月中旬水仙が花盛り

雑草ではノゲシのみ



野鳥情報 (辞書情報は山と溪谷舎発行「野鳥」より)

昨年もユリカモメが少なかったが今年も「観察日」に少ない。暖冬のせいかカモ類も少ない。

1月中旬、水元公園内で出会った野鳥類

- ・ハクセキレイを複数みかけた



- ・寒そうな猫さん



環境研修「鎌倉野草園」の見学に参加して
小さな小川風の流れには、カエルのたまごがあった。
その土手には、なんとチョウチョウがいた。



ちらほら野草が咲いていたが季節はずれ？の
シロバナタンポポを見つけた。 茎が短いセイヨウタンポポに会えた。



最近ではサクラの種類が多くなり、以前より花見が長い！



講師の芝原先生が開口一番

「この地域は昔、水元の小合溜池から田んぼの稲に水が流れていた」といわれ、
「そうだったんだ」と身近な場所になった。

野草園には雑草風の草や花が多くみられたが、表示があり参考になった。
カエルが沢山飛び出す姿も見てみたいと思った。ただ心配なのは、
入り口が複数あり、地域猫や散歩中の犬がいたずらしないか心配だ・・・。
場所を覚えたので初夏のころまたきてみようと思った。貴重な園なので、
講師の先生や関係者の皆さんに期待しています。

自然観察レポート 調査区 5

R5/12月～R6/2月の巻 佐々木 定治

自然は色彩の魔術師なり！



12/10 ツワブキ 水元3丁目 12/11 アカトウガラシ 水元2丁目 12/12 水元3丁目



2/5 雪景色 水元3丁目



2/9 スノードロップ 水元3丁目



2/9 残雪と造形美



凍り付いたパンジー



氷の花 水元3丁目

自然の織りなす色彩は、何とも美しいとしか言いようがありません。暖冬傾向にあるこの冬と言われつつ、予期せぬ気温低下の日もある中でもその色彩には、色落ちがないように見えます。ツワブキの花の黄色・唐辛子の朱色の鮮やかさに驚嘆するも、雪景色・残雪や氷花の地表・凍り付いても色香を失わない逞しさに感動です。

立春の鎌倉野草園で春を探そう



野草園入口看板



河津桜にメジロ



カエルのタマゴ

カエルの隠れ場所↓

メダカ池↓



自然環境レポーターの観察会が「鎌倉野草園」で2/18に開催されました。晴天の日に14名で春を探しました。

地名の由来看板↓



↑ 芝原専門員の説明

↓ 用水



館内にて説明↓



鎌倉野草園は葛飾区鎌倉3-22-1に位置し、新柴又駅徒歩5分の場所にあります。

野草園は、区民の「絶滅の危機にある野草を守りたい」という想いが発祥の中心意図です。

区内でも数十年前まで春の足音が聞こえる頃には、ヨモギやフキが群生し、「草もち」や「フキみそ」が季節の食卓にあがったものでした。

宅地が造成され、いわゆる開発が進み、自然界の季節の営みが、区内の野草にも絶滅の影を落とし始めています。

鎌倉野草園は、生き物の恵みの場として、地域の庭として人々がここに集い、住宅地にありながらも自然を守り育てている場所でもあります。人は、自然と共に生きることが大切です。今観察会はそんな心で春を探しました。講師に感謝！

大谷 悦子	町名：南水元	調査区：5-28
-------	--------	----------

【12月に見かけた実】

暑さが続き、なかなか秋らしくなりませんでしたが、12月は一気に冬になりました。水元公園のいろいろな実を集めてみました。



12/2 ウツギの実。水辺の里。



12/5 オオモクゲンジ



12/6 サイカチ グリーンプラザ裏



12/6 ヒヨドリジョウゴ
かわせみの里から出口
に向かったところ



12/6 マユミ かわせみの里から出口に向かったところ



12/17 芭蕉 花と実 水辺の里。



12/17 タンキリマメ 田んぼの近く



12/17 ハゼ 睡蓮池近く



12/17 アオキ



12/17 キカラスウリ 権八池



12/17 ヘクソカズラ



12/31 カンナの実、これは南水元です。

【1月に見かけた実と花】

1月は花も少なく、実も枯れたり、食べられてしまったりするものが多かったです。
水元公園を中心に集めてみました。



1/5 柴又帝釈天 くちなしの実 見上げるほどの大きな木でした。



1/5 柴又帝釈天 トベラの実 くちなしの隣にありました



1/6 水元公園 ヒメオドリコソウ もう咲いていました



1/8 水元公園 セイタカアワダチソウの実



1/10 水元公園 ロウバイ



1/10 水元公園 ロウバイの実 (昨年の実)。



1/10 水元公園 サザンカ



1/10 水元公園 ワルナスビの実



1/10 水元公園 サイカチの実 (落ちたもの)



1/25 原田小学校 クマシデの実



1/26 南水元 トウネズミモチ すっかり鳥に食べられたようです



1/31 水元公園 ハンノキの雄花序 雄蕊がのぞいていました



1/31 水元公園 ハマ
ヒサカキの実



1/31 水元公園 ヒド
リガモ。しきりに草を食
べているようでした



1/31 水元公園 ハゼの
実 すっかり鳥にたべら
れたようです



1/31 水元公園の近く シ
マトネリコの実



1/31 水元図書館 フ
ラサバソウ



1/31 水元図書館 オ
オイヌノフグリとフラ
サバソウ (右下)。



1/31 水元公園近く ホ
ソバヒイラギナンテンの
実



1/31 水元公園 オオモク
ゲンジの実もいくつか残っ
ていました

【2月】

2月はロゼット、葉痕、木の芽を探してみました。しかし。温暖化の影響か、ロゼットの近くの日当たりの良いところには、既に花が咲いていたりしました。また、葉痕や木の芽は撮影が難しく、あまり撮れませんでした。ロゼットも葉痕も木の芽を撮ろうとしゃがみ込んでいるときっと変な人に見えたのではないのでしょうか。また、名前の確認が難しく、スマホのレンズ機能や、図鑑で確認しました。



2/3 水元公園 水辺の里
ヘラオオバコのロゼット



2/3 水元公園
アマナの芽



2/11 南水元
ウラジロチチコグサのロゼット



2/11 南水元 オランダミミナグサの芽、近くには花も咲いていました。



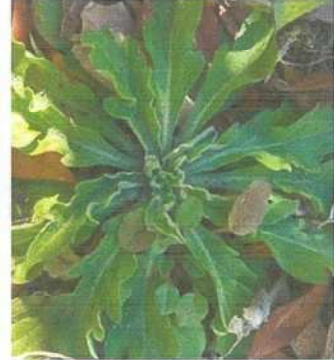
2/11 南水元
ハルノノゲシのロゼット



2/11 南水元 アメリカフウロのロゼット



2/11 南水元
ユウゲショウのロゼット



2/11 南水元 オオアレチノギクのロゼット



2/22 東水元
ヒメジョオンのロゼット



2/22 東水元
オニノゲシのロゼット



2/22 東水元
ハルジオンのロゼット



2/22 東水元
ギシギシのロゼット



2/22 南水元
タンポポのロゼット



2/22 東水元
ナガミヒナゲシのロゼット



2/22 南水元
ツメクサ



2/22 東水元
ヤエムグラ



2/23 南水元
キュウリグサのロゼット
近くには花の咲いているものもありました



2/23 南水元
チチコグサモドキのロゼット



2/3 水元公園
ヒメオドリコソウ、もう花が咲いています



2/3 水元公園
シロバナタンポポ



2/9 南水元
ツズジの葉痕



2/9 南水元
マテバシイの葉痕



2/3 水元公園
キカラスウリ
すっかり黄色くなりました



2/3 水元公園 水辺の里
芭蕉の実
枯れかけています

慶蔵 調査区5 12月2日

『カワセミ個体数一斉調査』に行つて

日付は忘れましたが、環境課の方と連絡をとっていると、「『カワセミ個体数一斉調査』に行つてもらえないかな??」と、何だかわからないことを聞かされて、まあ、迷わず『カワセミ??』と聞いたので、水元公園が頭に入り、「とりあえず、近々、区役所に行きますので・・・」と安易に流れるかのように8割、OKサインを出してしまいましたが、区役所に行つても具体的な内容はつかめない私でしたが、『水元公園全体でやるカワセミの調査』と言う事から、私の胸は弾みました。

12月2日、行つてみると人数は多く老若男女の集まりとなり二人で一組として、私たちは水辺の向こうを観察しました。本部が近いおかげで、講師の人がすぐにやつて来てくれて、「ほら、鳴いてる、鳴いてる、あれ、カワセミの鳴き声だよ!」と言われましたが、色んな鳥が鳴いているので、初心者の私には、聞き取れませんでした。

そんな時、水辺へ青い物が飛び込み、すぐに出て来て森の中へ入つたので、「カワセミだっ!!」と思い、本部へトランシーバーで、「こちら、赤7番、カワセミ発見です。」と伝えて、自分がかなり興奮しているのが、ハッキリ覚えています。その後も、体が青いので、向こうを見ていると、想像以上に見えまして、もう一人の方が記録してくれ

ました。

調査年月日：2023年12月2日 時間：10:00~11:30

サイン v:姿を確認、c:声を確認、fl:止まらずに通過

番号	見つけた時間	見失った時間	サイン	♂♀幼	備考
例)	10:25	10:26	fl	不明	西から飛来し、東へ通過
例)	10:45	10:50	v,c	♂	魚を捕まえてすぐ、車に飛び立つ。
①	10:00	10:02	v,c	不明	東に飛来し、水面に飛び入り
②	10:13	10:14	v,c	不明	水面近くの枝で発見→木の中を飛び回り西へ飛去
③	10:24	10:24	v,c	不明	水面の草むらで発見→木の中へ入った
④	10:30	10:30	v,c,fl	不明	水面に飛び入り→西へ飛去
⑤	11:11	11:12	v,c	不明	木の葉より水面に飛び入り→すぐ木の中に入る
⑥	11:19	11:19	v,c	不明	木の上から飛び入り→水面に飛び入り
⑦	11:22	11:27	c	不明	木の上から飛び入り、少し離れた場所へ入り
⑧	11:33	11:33	v,c,fl	不明	木の葉より水面に飛び入り→すぐ木の中に入る
⑨					
⑩					
⑪					
⑫					
⑬					
⑭					
⑮					

○調査地点マップ

○記録方法

- ①指定された地点に立ち、水辺を観察。カワセミを確認したら、表に時間・サイン・♂♀幼を記録。
※♂♀幼はわかる場合のみ書いてください。また、カワセミと確信を持ってない場合は記入しないでください。
- ②マップにカワセミの飛んだルートを矢印で記入し、そのカワセミの番号(①、②など)を矢印に記入。
- ③カワセミが飛び去ったとき、飛び去った方向を備考欄に記入し、マップにそのルートも矢印で示す。

終わってから、全員で本部に集まり記念撮影をして、終わりましたが、かわせみの里に行くと、何かあると聞き、行ってみるといつも以上にカワセミの事を語って頂き、その途中でかわせみの里にカワセミが来ました。望遠鏡で見ていると「良かったら、スマホ

で写真に残せるよ!!」と教えて頂き、初めてカワセミの写真撮る事が出来ました。



左にぼやけているのは、アオサギです。

帰宅してから、写真屋さんに行き編集していると中々のカワセミの写真が出来て記念のコーヒーカップも作りました。



かわせみの里に入れば

やってくる

スマホのレンズに

青い鳥たち…

季節の写真集 (12~2月)



ヤツデ 石鍋壽一 12/2 区北西部



アオキ 石鍋壽一 1/13 区北西部



「ヘチマを食べに窓の外に現れたネズミ」
有泉桂子 12/3 堀切7丁目の住宅

「オオイヌノフグリ」 有泉桂子
2/3 柴又、新八水路近くの草原



季節の写真集 (12~2月)



メタセコイア Ryu 12/3 水元公園



「満月」 Ryu 1/27 堀切菖蒲園



「ムクドリの集団」 有泉桂子 1/26
東堀切3丁目の都営住宅前の電線



「夜桜」 Ryu 2/28 白鳥南公園

季節の写真集 (12~2月)



「金町イルミネーション」 R 12/1 新宿



梅 R 1/27 堀切菖蒲園



「貧相なブロッコリー」 R 2/19 お花茶屋



「今夜のベッドはここに決まり」
キジバト 瑛ちゃん 2/8 金町

季節の写真集 (12~2月)



アメリカヒドリ むしあお 1/8 水元公園

アオサギ 慶蔵 12/2 水元かわせみの里



ミゾゴイ むしあお 1/8 水元公園



アトリの食餌 むしあお 1/8 水元公園

季節の写真集 (12~2月)



ヒメクダマキモドキ
下山田隆 12/9 水元公園



ノスリ 下山田隆
1/2 葛飾橋付近 江戸川



モズ 下山田隆 2/10 水産試験場

「雪景色」 佐々木定治 2/5 水元3丁目



季節の写真集 (12~2月)



「季節外れのミゾゴイ」
千葉美文 2/4 水元公園



「首をかしげるジョウビタキ」
千葉美文 2/12 水元公園



「桜の芽を食べるウソ」
千葉美文 2/12 水元公園

「ゴーヤーが終わったあと放って
おいたら、ホトケノザが満開！」
ゆきひめ 12/28 立石



葛飾柴又新八水路 魚からの便り-317

調査回数 調査日 地点		319			備 考
		2023/12/10			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	オ イ カ ワ	1 67			
2	カ ダ ヤ シ		210 10-41		特定外来生物
3	カ マ ツ カ	1 81			
4	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	1 30			
5	シ モ フ リ シ マ ハ ゼ	1 49			
6	デ メ モ ロ コ	1 50			
7	ヌ マ チ チ ブ	27 31-62			
8	ハ	3 60-70			
9	ボ	2 176-195			
10	マ ハ ゼ	1 98			
11	メ ダ カ		1 28		
計		9種類38個体	2種類211個体	0種類0個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、あわせて11種類249個体の魚類が採集されました。（ワンドは水位がなく採集ができず）
- ・ 晴れ、気温20.8℃、水温 本流12.8℃、新八水路12.8℃、（14:45頃測定）
「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
（10:00）1.37m （12:00）1.37m （14:00）1.38m

【参加者コメント】

- ・ 水面上は暖かいものの、水面下はさすがに12月、という天候、沖でたまにボラらしき魚が跳ねるものの、苦戦しました。
船着場付近の泥の上に、人の手くらい大きな、多分アオサギの足あとがあり、（沈まなくていいなあ）と、泥に足を取られながら思いました。（KI）
- ・ 温かい日差しの中の採集でしたがやっぱり冬です、涙目で投網投げ続けました。ハス君ありがとう。（MT）
- ・ ワンドの水がなくて採集ができなかったが、今年3回目だ。11月の真冬のような調査の時に、12月は11月より暖かいかも、と予想したが、見事に当たりました。（SI）

【今後の調査日】

2024年1月27日（土） 2月11日（日） 3月10日（日）

HP（<http://shigenori1.jimdo.com/>）新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-318

調査回数 調査日 地点		320			備 考
		2024/1/27			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	1 44			
2	オ イ カ ワ	2 46-58			
3	カ ダ ヤ シ		151 13-30		特定外来生物
4	シ モ フ リ シ マ ハ ゼ	1 55			
5	タイリクバラタナゴ		1 15		
6	デ メ モ ロ コ	4 47-61			
7	ヌ マ チ チ ブ	4 36-60			
8	ハ ス	3 90-111			
9	メ ダ カ		6 21-27		
計		6種類15個体	3種類158個体	0種類0個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、あわせて9種類173個体の魚類が採集されました。（ワンドは水位がなく採集ができず）
- ・ 晴れ、気温13.0℃、水温 本流6.8℃、新八水路7.6℃（14:20頃測定）
「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
(10:00)1.45m (12:00)1.47m (14:00)1.48m

【参加者コメント】

- ・ 午前中、水際を、イタチ？らしい長い茶色の生き物が歩いていて、声をかけたらちょっとこちらを見て、逃げるでもなく何か探す仕草をしながら上流方向に向かって行きました。可愛かった。逃げ出したフェレットとかではありませんように。風揚げ大会が行われていたようで、ふたつほど川の上を飛ばされて行きました。テグスほどではないにしても、動物とかに絡まないか心配です。（KI）
- ・ 死にかけの魚を大事に捕獲している自分の小ささを知った記念日になりました・・・冷たかった川の水と「みんなの視線。。（MT）
- ・ 調査中に本流で転んでびしょ濡れ。新八では初めてで、下半身の老化を実感した。（SI）

【今後の調査日】

2月12日(月、振替休日) 3月10日(日)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-319

調査回数 調査日 地点		321			備 考
		2024/2/12			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	6 34-41			
2	カ ダ ヤ シ		63 13-27		特定外来生物
3	カ マ ツ カ	1 94			
4	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	1 37			
5	タイリクバラタナゴ		2 15-21		
6	デ メ モ ロ コ	2 37-54			
7	ヌ マ チ チ ブ	24 21-63			
8	メ ダ カ		12 20-27		
計		5種類34個体	3種類77個体	0種類0個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、あわせて8種類111個体の魚類が採集されました。（ワンドは若干水位があったが採集ができず）
- ・ 晴れ、気温12.0℃、水温 本流10.2℃、新八水路10.8℃（14:30頃測定）
「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
(10:00)1.42m (12:00)1.25m (14:00)1.28m

【参加者コメント】

- ・ 水槽の魚をのぞいて行く人たちが「メダカ、ウチでも飼っている」とか、「水元公園でクチボソ取った」とか、もともと生き物好きの人が足を停めてくれるのかもしれませんが、昔の江戸川の話や、近くの釣りの穴場を教えてくれる人がいたり、ひと月に1日限定ながら、ちょっとした交流が生まれている気がします。（KI）
- ・ 母さん 僕のノレソレはどこいったんでしょう そうあれです 投網で折れ曲がった稚魚です (^)チチブに食われたな (MT)
- ・ 汚いところにいると言われていた「ハナアブ」の幼虫が水路で採れた。汚いと感じていたがどれほど汚いのだろうか。やはり泥上げが必要だ。（SI）

【今後の調査日】

3月10日(日) 4月7日(日) 5月25日(土) 6月22日(土) 7月21日(日) 8月17日(土) 9月1日(日)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

環境課からのお知らせ

★自然環境レポーター研修会を開催しました！★

令和6年2月18日(日)、「立春の鎌倉野草園で春を探そう」をテーマに、鎌倉公園にて自然観察会を開催しました。

鎌倉公園は、野草園のある南側を2022年にリニューアルオープンし、人と生きものの憩いの場を目指して取り組んでいます。そこで今回の研修会では、野草園管理所の専門員である講師の方に、野草園の成り立ちや現在の様子についてお話を伺いながら、実際に公園内を歩いて自然観察をしました。

3～4人程のグループになり、「55種の動植物の指標種」リストをもとに生きもの探しを行った際は、植物をはじめそれぞれが得意とする知識を発揮して観察していました。また、協力して取り組む中で、個々人が行っているレポーター活動についてお話しし合える機会にもなりました。

まさに春といった暖かい陽射しの中、動植物への知識を深めつつ、レポーター同士も交流できる研修会となりました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

今後も研修会を開催していく予定ですので、レポーター同士の交流やレベルアップのためにも、皆さまのご参加をお待ちしております。



▲講師のお話を伺う
自然環境レポーターの皆さま

▼グループでの自然観察の様子



環境課からのお知らせ

★「かつしか環境・緑化フェア2024」を開催します★

【日時】令和6年6月9日（日） 10時～15時（予定）

【場所】テクノプラザかつしか（青戸7-2-1）

かつしか環境・緑化フェア（※）は、遊びや学びを通して、子どもから大人まで環境について楽しく考えるイベントです。昨年度は約4,500人が来場されました。イベントには様々なブースが設けられ、自然環境レポーターも活動報告やクイズを交えたパネル展示等をする予定です。皆さま是非お立ち寄りください！

※詳しくは、6月頃に掲載予定の広報かつしかをご覧ください。

※後日、自然環境レポーターの皆さまから、フェア当日にお手伝いしていただける方を募集いたしますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

★新ハ水路で魚類調査を行います★



【日時】3月10日（日） 4月7日（日） 5月25日（土）

いずれも10時～16時ごろ

【場所】江戸川河川敷 ※事前連絡をお願いします。

【持ち物】着替え、昼食、飲み物、首に巻くタオル、短くないソックス

詳しくは、HP (<http://shigenoril.jimdo.com/>) をご覧ください。

★エコチャレンジ・エコマスター事業終了のお知らせ★

エコチャレンジ・エコマスター事業は、令和5年度をもって終了することとなりました。今までご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。今後も、環境に配慮した行動にご協力いただけますようお願い申し上げます。

※ご不明点等ございましたら、環境課環境計画係（03-5654-8228）までお問い合わせください。

環境課からのお知らせ

★水元公園 カワセミ一斉調査を行います！★

水元小合溜の水質浄化事業「カムバックかわせみ作戦」により、すっかり身近になったかつての幻の鳥「カワセミ」。そんなカワセミが、水元公園に何羽カムバックしてくれたのか、みんなで調べてみませんか？

【日時】

事前説明会：4月29日（月・祝）10時～12時

※初めての方は事前説明会にもご参加ください（参加が難しい場合は要相談）。

個体数調査：5月6日（月・祝）9時半～13時

【会場】

事前説明会：水元かわせみの里 水辺のふれあいルーム及び水元公園周辺

〒125-0034 葛飾区水元公園8-3号

電話03-3627-5201

調査当日：水元公園グリーンプラザ

〒125-0034 葛飾区水元公園7-2 水元グリーンプラザ

電話03-3627-5201

【申込方法】水元かわせみの里の電話・窓口のほか、
右のQRコードから受け付けています。
※先着順です。



▲電子申請はこちら

【申込期間】3月26日（火）～4月25日（木）



春号にご協力いただいたみなさま（敬称略）

R	アナログバーバ	有泉桂子
石戸雅彦	石鍋壽一	瑛ちゃん
江戸川の小鮒	大谷悦子	K・N
K・T	慶蔵	佐々木定治
散歩の花子	下山田隆	高橋雅子
田村ひろ子	千葉美文	ひまわり
広瀬温	むしあお	弥生さくら草
ゆきひめ	Ryu	

自主生物調査団（編集：一澤成典さん）

ありがとうございました！

「水辺のふるさとかつしか」第328号
（葛飾区 自然環境レポーター通信第280号）
令和6年3月末日 発行
葛飾区環境部環境課自然環境係
〒124-8555 葛飾区立石5-13-1
代表電話 (3695)1111
内線 3522~3
直通電話 (5654)8237
FAX (5698)1538



「水辺のふるさとかつしか」の内容について、
お間違い等お気づきの点がありましたらお知らせください。